

【住友林業 参考資料】

平成 31 年 4 月 10 日

住友林業では、これまで様々な神社仏閣や自治体が管理する名木や貴重木の後継樹を育成するため、組織培養・接ぎ木・種子により苗を増殖してきました。増殖した苗が確実に同じ形質（花や葉など）を受け継いでいるかを確認するため、形態観察や遺伝子による鑑定をしています。

■住友林業の今後の取り組み

住友林業は全国のサクラ約 250 種の DNA データベースを保有しています。今後、東京で育成されたサクラの品種鑑定を進めることで DNA データベースを拡充し、東京に縁のある品種レパートリーを充実させます。これによって東京都の各地域に相応しいサクラの植栽等のサービス提供を進めてまいります。

当社は、サクラのほかにも全国の名木・貴重木の後継樹育成に関するご相談をお受けしています。詳しくは担当部署「森林・緑化研究センター」(<http://sfc.jp/flrc/>)まで、お問合せください。

◆これまでの実施例

太閤しだれ桜(京都市伏見区・総本山醍醐寺)、日光椿など(京都市左京区・霊鑑寺、市指定天然記念物)、御室桜(京都市右京区・総本山仁和寺)、祐天桜(東京都品川区・清岸寺、区指定天然記念物)、奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)、長興山紹太寺のしだれ桜(神奈川県小田原市・長興山紹太寺、市指定天然記念物)、妙法桜(神奈川県鎌倉市・安国論寺、市指定天然記念物)、紅和塊梅(京都市上京区・北野天満宮)、真鍋のサクラ(茨城県土浦市・茨城県土浦市立真鍋小学校、県指定天然記念物)、ヒロシマエバヤマザクラ(広島市中区、市指定天然記念物)、泉の一葉マツ(福島県南相馬市、県指定天然記念物)

◆組織培養による苗の増殖について

組織培養は、無菌の試験管の中で苗を増やす技術で、下記のようなメリットがあります。

- ・無菌下で作業をするため、病虫害の心配がない
- ・組織の若返りが期待できる
- ・小面積で大量の苗が生産できるとともに季節によらず生産が可能
- ・半永久的に試験管内での保存が可能

◆京都府・醍醐寺の「太閤しだれ桜」の例(世界初の組織培養によるシダレザクラの増殖)



材料となる枝



芽の中にある分裂組織を顕微鏡で摘出



培養液の中で育てて 2 カ月の状態



培養 6 カ月



培養 7 カ月



外の条件に慣らしている状態



「太閤しだれ桜」(2015 年 3 月 31 日撮影)

木と生きる幸福

住友林業グループ